

五 2 目的に応じた引用 通過率 56.0% 理由を挙げた記述 通過率 37.6%

五 山中さんの学級では、一人一人が詩を選び、感想を交流することになりました。山中さんは、次の【詩1】と【詩2】のうち、どちらかの詩を選びたいと考え、それぞれの詩についてメモを書きました。【詩1】と【詩2】、山中さんの【メモ1】と【メモ2】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【詩1】

川柳亭
「たんぼぼ」による。

【メモ1】

えがかれている様子
たんぼぼのわた毛が、風につてふわふわとたくさんとんでいく様子。

表現の工夫

○ 一つ一つのたんぼぼに名前をつけてよびかけている様子。
「たんぼぼ」のひらがな四文字を使って表している。

【詩2】

武蔵野子
「さくら」による。

【メモ2】

えがかれている様子
春にさくらの花がさき、時がすぎるよとにだんだんと散っていく様子。

表現の工夫

①
②

2 あなたが【詩1】と【詩2】のどちらかを選んで感想を交流するとしたら、【詩1】と【詩2】のどちらを選びますか。□の中の【詩1】・【詩2】のどちらかを選び、○を付け、あなたが選んだ理由を、次の【注意】にしたがって□の中に書きましょう。

【注意】

- 「その理由は、」に続けて書くこと。
- 詩の中の言葉を、「」を使って引用して書くこと。
- 詩の中の言葉から想像したことや思ったことなどを具体的に書くこと。

わたしは、
【詩1】・【詩2】
を選びます。

その理由は、

（正答例）

【詩1】を選んだ場合

その理由は、たんぼぼの四文字を使って、「たんぼぼの」の一つ一つに「たぼんぼ」「ぼぼんた」「ぼんたぼ」「ぼたぼん」と名前をつけたり、「川におちるな」とよびかけたりしているところから、とんでいったたんぼぼが元気にさいてほしいという川崎さんのやさしい気持ちや伝わってきて気に入ったからです。

【詩2】を選んだ場合

その理由は、風や雨とさくらの関係が面白いと思ったからです。
風がふいたり雨がふったりするとさくらは散ってしまいます。さくらにとつて風や雨はめいわくなはずなのに、風や雨はその気持ちを考えていません。それは「さくらがさく」とうれしくて、かぜもさくらをみにきます」などと書かれています。さくらからわかれます。さくらはうれしそうにやってくる風や雨のことをどう思っているのだろうと考えると面白くなりました。

問題の趣旨と学習指導要領における領域・内容

【引用】

「感想を交流する」という目的や必要に応じて引用することができるかどうかをみる。

[小学校第3学年及び第4学年]

C 読むこと

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

【理由を挙げた記述】

「感想を交流する」という目的や必要に応じて、理由を挙げて書くことができるかどうかをみる。

[小学校第3学年及び第4学年]

B 書くこと

ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

主な誤答等

主な誤答例	割合(%)	主な誤答例	割合(%)
引用箇所がない。	13.4%	想像できることや思ったことを具体的に書いていない。	19.8%
原文を正しく引用していない。 (原文がひらがなのものを漢字に変換したり、文末表現を変えたりしている。)	12.1%	「その理由は、」に続くように書いていない。	11.4%
引用箇所をかぎ(「 」)でくくっていない。	6.0%	詩から想像できることや思ったことを書いていない。	3.1%
無解答	6.2%	無解答	6.0%

これまでの「基礎・基本」定着状況調査との関連

- 複数の資料を関連付けて考え、自分が選択した取組内容を具体的に考えて、三段落で自分の考えを書くこと。(H25「基礎・基本」定着状況調査 五2「理由を挙げた記述」で出題。通過率 27.1%)
昨年度に比べて通過率に改善傾向はみられるものの、依然として理由を挙げて書くことに課題が見られる。

課題

- 自分の考えを述べるために文章などを引用すること。
- 想像したことや思ったことと、その理由を具体的に書くこと。

指導のポイント

引用する力をつけるために

- ステップ1** 「お気に入りの本を紹介しよう」といった学習課題を設定し、文章を引用して説明したり、自分の考えを述べたりする学習を仕組みましょう。



ただ単に引用について教えるだけでなく、児童が引用する必然性を感じるような単元を貫く言語活動を通して指導することが大切です。

- ステップ2** 引用の定義、原文や話の内容を正確に引用する方法について指導しましょう。

「引用」とは、説明する、感想を交流するといった何らかの目的や必要に応じて本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであることをおさえましょう。
実際に引用する際には、元の文章や話の内容を正確に書き抜くことが大切であること、また引用する部分は、かぎ（「」）でくくるようにすること、引用した文章等の出典について明記することなどをしっかり指導しておくことが大切です。



- ステップ3** 設定した言語活動の中で、実際に引用して文章を書かせるとともに、適切に引用できているか確認させましょう。



国語の時間で引用を学んだら、他の教科でその学びを活用させるような指導をすることも大切です。

具体的な理由を挙げて書く力をつけるために

- ステップ1** 「新美南吉作品の読書交流会を開こう」といった、物語や詩を読み自分の感想を述べ合うような言語活動を設定しましょう。



新美南吉の作品を読んで感想を交流するんだね。そのためにまずは、「ごんぎつね」でどんな読み方をすれば感想が交流できるか学ばないと。その間にぼくは新美南吉の作品の中からお気に入りを見つけて読んでおこう。



- ステップ2** 児童の感想が本や文章のどの叙述に基づいているのか、自分の経験や普段考えたり関心をもっていたりすることとどのように関連しているかなどを説明させましょう。

「面白かった」「かわいそうだった」「すごいと思った」などの抽象的な言葉に着目させ、どの場面からそう思ったのか、どうしてそう思ったのかなど、具体的な根拠や理由を挙げながら伝えるよう指導することが大切です。



- ステップ3** 話し合ったことを基に感想を書かせましょう。



話し合いなどを通して抽象的であった考えをより具体化させ、その上で書く活動につなげることで、児童はより書きやすくなります。
なお、理由を挙げて書く際の表現についてもきちんと指導しておきましょう。
・理由→「なぜかという」と「その理由は」「～だからです」

